

■ **世界でも未開の“顧客動線データ”を解析！もっと満足できる売り場づくりへ** ■
商学部・矢田勝俊教授が平成最後の文部科学大臣表彰を受賞
「流通ビッグデータ利活用のためのデータマイニング技術の振興」

このたび、関西大学商学部の矢田勝俊教授が、2019年度科学技術分野の文部科学大臣表彰「科学技術賞（科学技術振興部門）」を受賞しました。今般の科学技術賞受賞者 88 件 180 名のうち、私立大学関係者はわずか 20 名で、本学としては延べ 12 人目の受賞となりました。

本件の
ポイント

- ・商学部の矢田勝俊教授が 2019 年度文部科学大臣表彰「科学技術賞」を受賞
- ・大規模データの有効活用法を示し、流通業におけるビッグデータ利活用の礎を構築
- ・データマイニング技術(データからの知識発掘)の振興に貢献

<受賞業績名> 「流通ビッグデータ利活用のためのデータマイニング技術の振興」

データマイニングとは「データからの知識発掘」のこと。あらゆる情報があふれる現代社会ですが、必ずしも「情報量が多い＝知識が増える」とは言えません。新たな知識、未知の結果を発見するためには、大量の情報の中からパターンやルール、相関を発見し、知識ベースとして蓄積・学習することが求められます。これまで流通業界では、効率的なデータ処理のためのインフラが必要とされていた一方で、データマイニング技術導入には多くの問題が残っていました。

矢田教授は、国内の大規模データの事前処理システムに大きな影響を与えたプラットフォーム“MUSASHI”の公開をはじめ、大規模データ分析のための ASP システムやマーケティングアプリケーションの開発など、データマイニング技術のビジネス応用について研究しています。最近では、従来未開とされてきた店舗内の購買プロセス、すなわち消費者行動の研究においてこの手法を取り入れ、満足できる売り場づくりを創出するための挑戦を続けています。

大規模データの蓄積・管理・分析が低コスト化を実現するなど、矢田教授がマーケティングにおけるデータマイニング技術の有効活用法を示したことで、流通業におけるビッグデータ利活用の礎が築かれ、データマイニング技術の振興に貢献したとして、今回の受賞に至りました。現在では小売業をはじめ、多くの企業においてデータマイニング技術が導入され、大規模な研究会も定期的に開催されています。

■ **商学部・矢田 勝俊(やだ かつとし)教授 プロフィール**

1969 年福井県生まれ。専門は経営情報論、経営情報システム、知識情報学。神戸商科大学博士(経営学)。神戸商科大学大学院経営学研究科博士後期課程修了後、大阪産業大学経営学部を経て、2000 年 4 月に本学商学部に着任。2015 年 4 月から大阪大学招へい教授を兼任。阪神・淡路大震災をきっかけに、疎開もかねて複数の企業のスタッフになり、レジ打ちからシステム開発、店舗設計にいたるまで、情報化の現場経験を積む。現在は主に顧客・店舗管理、商品評価、消費者行動モデリングに関するデータマイニングに取り組んでいる。文部科学省「産学連携による実践型人材育成事業」DSI プログラム統括責任者、文部科学省「私立大学戦略的研究基盤形成支援事業」データマイニング応用研究センター所長、データサイエンス研究センター長などを歴任。



※取材をご希望の方は、お手数ですがお問い合わせ先までご連絡をお願いいたします。

以上

この件に関するお問い合わせ先

関西大学 総合企画室 広報課 担当：寺崎、浦田

〒564-8680 大阪府吹田市山手町 3-3-35 Tel.06-6368-0201 Fax.06-6368-1266

www.kansai-u.ac.jp